

my.cnf変更箇所リスト

No.	必須/参考	初期値	ITAインストール後	備考
1	必須	なし	default_password_lifetime = 0	
2	必須	なし	log_timestamps=SYSTEM	
3	必須	なし	skip-character-set-client-handshake	
4	必須	なし	explicit_defaults_for_timestamp = true	
5	必須	なし	character-set-server = utf8	
6	必須	なし	max_connections=100	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
7	必須	なし	sql_mode=NO_ENGINE_SUBSTITUTION,STRICT_TRANS_TABLES	
8	必須	なし	innodb_buffer_pool_size = 256MB	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
9	必須	なし	innodb_file_per_table	
10	必須	なし	innodb_file_format=Barracuda	Barracudaを指定することでDBファイルが圧縮されるため、多少のCPU パワーと引き換えに十分なパフォーマンスを引き出してくれる。 ※インデックスの最大文字列数も716バイト→3017バイトに拡張される。
11	必須	なし	innodb_large_prefix	
12	参考	なし	innodb_log_buffer_size=32M	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
13	参考	なし	innodb_log_file_size=128M	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
14	参考	なし	min_examined_row_limit=100	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
15	参考	なし	key_buffer_size=128M	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
16	参考	なし	join_buffer_size=64M	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
17	参考	なし	max_allowed_packet=8M	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
18	参考	なし	read_buffer_size=32	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
19	参考	なし	read_rnd_buffer_size=32	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
20	参考	なし	sort_buffer_size=32	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
21	参考	なし	query_cache_limit=16	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
22	参考	なし	query_cache_size=256M	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
23	参考	なし	query_cache_type=1	
24	参考	なし	max_heap_table_size=32M	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
25	参考	なし	tmp_table_size=32M	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
26	必須	なし	max_sp_recursion_depth=20	MySQLのファンクションにて再帰呼び出しする際に必要。
27	必須	なし	transaction-isolation=READ-COMMITTED	トランザクションの分離レベルを指定。 「READ-COMMITTED」は多くのデータベースシステム (Oracle、 PostgreSQL、SQL Server) でデフォルトの分離レベル。 MySQLのデフォルトは「REPEATABLE-READ」であるがITAの利用方針 と合わないため変更する必要がある。
25	参考	なし	validate_password=OFF	

ansible.cfg変更箇所リスト

No.	必須/参考	初期値	ITAインストール後	備考
1	必須	#inventory = /etc/ansible/hosts	inventory = /etc/ansible/hosts	※コメント解除
2	必須	#remote_tmp = ~/.ansible/tmp	remote_tmp = ~/.ansible/tmp	※コメント解除
3	必須	#forks = 5	forks = 5	※コメント解除
4	必須	#poll_interval = 15	poll_interval = 15	※コメント解除
5	必須	#sudo_user = root	sudo_user = root	※コメント解除
6	必須	#transport = smart	transport = smart	※コメント解除
7	必須	#module_lang = C	module_lang = C	※コメント解除
8	必須	#gathering = implicit	gathering = implicit	※コメント解除
8	必須	#host_key_checking = False	host_key_checking = False	※コメント解除
9	必須	#sudo_exe = sudo	sudo_exe = sudo	※コメント解除
10	必須	#timeout = 10	timeout = 10	※コメント解除
11	必須	#ansible_managed = Ansible managed	ansible_managed = Ansible managed	※コメント解除
23	必須	#deprecation_warnings = True	deprecation_warnings = False	※コメント解除+変更
12	必須	#action_plugins = /usr/share/ansible/plugins/action	action_plugins = /usr/share/ansible/plugins/action	※コメント解除
13	必須	#callback_plugins = /usr/share/ansible/plugins/callback	callback_plugins = /usr/share/ansible/plugins/callback	※コメント解除
14	必須	#connection_plugins = /usr/share/ansible/plugins/connection	connection_plugins = /usr/share/ansible/plugins/connection	※コメント解除
15	必須	#lookup_plugins = /usr/share/ansible/plugins/lookup	lookup_plugins = /usr/share/ansible/plugins/lookup	※コメント解除
16	必須	#vars_plugins = /usr/share/ansible/plugins/vars	vars_plugins = /usr/share/ansible/plugins/vars	※コメント解除
17	必須	#filter_plugins = /usr/share/ansible/plugins/filter	filter_plugins = /usr/share/ansible/plugins/filter	※コメント解除
18	必須	#fact_caching = memory	fact_caching = memory	※コメント解除
24	必須	#ssh_args = -C -o ControlMaster=auto -o ControlPersist=60s	ssh_args = -o ControlMaster=no -o ControlPersist=60s -o StrictHostKeyChecking=no -o UserKnownHostsFile=/dev/null	※コメント解除+変更
19	必須	#accelerate_port = 5099	accelerate_port = 5099	※コメント解除
20	必須	#accelerate_timeout = 30	accelerate_timeout = 30	※コメント解除
21	必須	#accelerate_connect_timeout = 5.0	accelerate_connect_timeout = 5.0	※コメント解除
22	必須	#accelerate_daemon_timeout = 30	accelerate_daemon_timeout = 30	※コメント解除

php.ini変更箇所リスト

No.	必須/参考	初期値	ITAインストール後	備考
1	参考	output_buffering = 4096	output_buffering = 8192	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
2	参考	expose_php = On	expose_php = Off	PHPバージョンを隠す場合に設定を変更。
3	参考	max_execution_time = 30	max_execution_time = 600	ITA利用時にタイムアウト等発生の際はチューニングを検討。
4	参考	max_input_time = 60	max_input_time = 600	ITA利用時にタイムアウト等発生の際はチューニングを検討。
5	参考	memory_limit = 128M	memory_limit = 512M	ITA利用時にPHPのメモリ不足が発生する場合はチューニングを検討。
6	参考	post_max_size = 8M	post_max_size = 1024M	ITA利用時に大容量の登録/更新ができない場合はチューニングを検討。
7	参考	upload_max_filesize = 2M	upload_max_filesize = 1024M	ITAにてファイルアップロードしたいサイズによりチューニングを検討。
8	参考	default_socket_timeout = 60	default_socket_timeout = 600	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
9	必須	;date.timezone =	date.timezone = "Asia/Tokyo"	
10	参考	pdo_mysql.cache_size = 2000	pdo_mysql.cache_size = 4000	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
11	必須	pdo_mysql.default_socket=	pdo_mysql.default_socket=/var/lib/mysql/mysql.sock	ITAはPHPからPDOを利用してMySQLに接続している。
12	参考	mysql.cache_size = 2000	mysql.cache_size = 4000	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
13	参考	mysql.connect_timeout = 60	mysql.connect_timeout = 600	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
14	必須	;session.save_path = "/tmp"	session.save_path = "/var/lib/php/session"	変更後のディレクトリは作成しておく必要がある。 デフォルト(/tmp)は非推奨。
15	必須	session.gc_divisor = 1000	session.gc_divisor = 1	PHPセッションファイルのGCを制御する。 左記の設定では、 session.gc_probability = 1 のデフォルト値との組み合わせで、 12時間以上経過のセッションファイルを100%の確率でGCする。
16	必須	session.gc_maxlifetime = 1440	session.gc_maxlifetime = 43200	
17	必須	;mbstring.language = Japanese	mbstring.language = Japanese	※コメント解除
18	必須	;mbstring.internal_encoding =	mbstring.internal_encoding = UTF-8	※コメント解除+変更
19	必須	;mbstring.http_input =	mbstring.http_input = auto	※コメント解除+変更
20	必須	;mbstring.http_output =	mbstring.http_output = UTF-8	※コメント解除+変更
21	必須	;mbstring.encoding_translation = Off	mbstring.encoding_translation = Off	※コメント解除
22	必須	;mbstring.detect_order = auto	mbstring.detect_order = auto	※コメント解除
23	必須	;mbstring.substitute_character = none	mbstring.substitute_character = none	※コメント解除
24	必須	;openssl.cafile=	openssl.cafile=/etc/pki/tls/certs/exastro-it-automation-ja.crt	
25	必須	;openssl.capath=	openssl.capath=/etc/pki/tls/certs/exastro-it-automation-ja.crt	

ITA設定ファイル説明

No.	ITA	Ansible	Cobbler	OpenStack	DSG	AnsibleTower	設定ファイル名	説明
1			○				(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/backyardconfs/cobbler_driver/path_DATA_RELAY_STRAGE_side.Cobbler	Cobblerサーバーにて、データリストレージのルートパスを定義。
2	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/backyardconfs/ita_base/data.portability_running_limit.txt	データポータビリティの、インポート処理の実行時間制限値。 設定値を過ぎても実行中の処理は失敗と判定する。 単位は秒。デフォルトは300を指定。
3	○	○			○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/backyardconfs/ita_base/hide_menu_column_list.txt	代入権自動登録設定の項目表示から除外するカラムを記載する。 「#」始まりの行は無視される。
4	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/backyardconfs/mail.option.txt	システムメール(ky_mail)を利用する場合のmailコマンドに引き渡すオプションを記載する。 ※ITAのメール送信機能(ky_mail)を利用しない場合は不要。 例えば、送信先MTAを固定したい場合は「→ smtp<xxx.xxx.xxx.xxx>25」などと記載する。
5	○	○	○	○	○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/backyardconfs/path_PHP_MODULE.txt	PHPモジュールのパスを記載。 例:/usr/php
6	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/backyardconfs/sysmail.list	システムメール(ky_mail)を利用する場合の設定を記載する。 ※ITAのメール送信機能(ky_mail)を利用しない場合は不要。
7	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/app_mail_from.txt	WebDBCoreからシステムメール(ky_mail)を利用する場合に、送信元アドレスになる。 ※00_loadable.phpにアクション処理でメール送信する場合。 ※ITAのメール送信機能(ky_mail)を利用しない場合は不要。
8	○	○			○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/app_msg_language.txt	ITAの使用言語を定義する。 日本語の場合は「ja_JP」を記載。
9	○	○	○	○	○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/db_connection_string.txt	MySQLへの接続文字列。 例:mysqldbname=ITA,DBhost=localhostを暗号した文字列 暗号仕様については※1を参照
10	○	○	○	○	○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/db_model_string.txt	RDBの種類を定義。 0: OracleDB 1: MySQL/MariaDB
11	○	○	○	○	○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/db_password.txt	MySQLの接続パスワード。 例:ITA_PASSWDを暗号した文字列。 暗号仕様については※1を参照
12	○	○	○	○	○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/db_username.txt	MySQLの接続ユーザ。 例:ITA_USERを暗号した文字列。 暗号仕様については※1を参照
13	○	○				○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/path_PHP_Spyc_Classes.txt	Spycのパスを記載。 本サンプル⇒「/usr/share/php/spyc-master」を記載
14	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/path_PHP_Twig.txt	Twigのパスを記載。 例:/usr/share/php/Twig-1.34.4
15		○					(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/restapiconfs/ansible_driver/accesskey.txt	AnsibleサーバーのRestAPIに使用するアクセスキー。 例:「AccessKeyId」を暗号した文字列 暗号仕様については※1を参照
16		○					(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/restapiconfs/ansible_driver/secret_accesskey.txt	AnsibleサーバーのRestAPIに使用する秘密キー。 例:「SecretAccessKey」を暗号した文字列 暗号仕様については※1を参照
17	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/webconfs/admin_mail_addr.txt	システム管理者の連絡先(メールアドレス)を記載。 ファイルが無い場合 ⇒「管理者へ連絡」といったリンクが無くなる
18	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/webconfs/L7Protocol.txt	ITA前段でHTTPS終端する場合など、クライアントサーバのプロトコルが分からない場合に利用する。 ファイルが存在しておりプロトコル(HTTP/HTTPS)の記載がある場合 ⇒ファイルに記載されているプロトコル(HTTP or HTTPS)が採用される ファイルが無いまたはファイルが0バイトの場合 ⇒環境変数(\$SERVER)からHTTP/HTTPSを判定する
19	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/webconfs/path_HTML_AJAX.txt	HTML_AJAXのパスを記載。 例:/usr/share/pear/
20	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/webconfs/path_PHP_Excel_Classes.txt	PHPExcelのパスを記載。 例:/usr/share/php/PHPExcel/Classes/

※1 base64エンコード後、rot13で変換した値